

第2回

協働学習企画入門

講義概要

【 3 】 協働学習企画

(1) 生涯学習に寄せる IT 革命の波

現在は IT 革命の真っ直中にあります。黒船来航以来の大変革です。生涯学習の学び方で見れば、インターネットの活用、主体的な学習に学習スタイルがシフトしつつあります。第 1 回講義で紹介した「eポートフォリオ学習」は、主に個人を対象に考えたものです。第 2 回講義では、これを地域に広げ、学習の輪を作る「協働学習」を数多くの事例を参考にしながら、21 世紀にふさわしい豊かな生涯学習の機会提供を考えていくことにします。

(2) 協働学習モデル「楽しく協働学習」

東北芸術工科大学では 2002 年に公開講座「PushCorn ワークショップ『楽しく協働学習』」を開きました。学習者の興味に応じて「環境学習」「自然観察」「地域学習」「旅れば」の各テーマを設定しました。各 2 日間の学習コースです。1 日目は午前の講義、午後のフィールド学習、2 日目は PushCorn を用いた e ポートフォリオづくり、学習者の成果発表という構成です。PushCorn の使い方を学ぶだけなら 2 時間程度のワークショップで一通りの基本的な体験ができます。

従来のいわゆる IT 講習と違い、IT を学ぶのでなく、IT を手段として目的のある学習を面白いものにするを学ぶことが狙いです。

2002 年の公開講座から 2 年が経ち、当初予期した以上の果実が学習者から生み出されてきました。山形では当時の受講生が核となり地域活動や仲間づくりに IT を活かすコミュニティ活動（e コミュニティ）がいくつも生まれ、全国に広がる気運をみせている。多くの人々が e ポートフォリオを使った情報の蓄積・情報の発信を実践できることは何より数多くの事例が雄弁に語っています。地域づくりや生き甲斐づくりに役立つ協働学習を企画する上での参考になります。

(3) e コミュニティで生涯学習

公開講座などは持続性のある生涯学習の単なる入口に過ぎません。そこで得たものを自己開発や社会参加に活かした実践を積むことで、学んだことが本物の力に転じていきます。

2003 年、山形県を会場に開催された国民文化祭やまがた 2003 では、同事務局の一人が PushCorn を使った情報レポーターを企画し、市民から有志を募ってプロジェクトを組織しました。イベント取材を素人集団が自分たちで計画し実行しました。日々の情報レポートがネットに公開され、ボランティアの活動、各地でのイベントの様子などが市民主体で豊かに記録され、レポーターたちが日々逞しく成長しました。

協働学習の予備体験があると、次段階では実践的な社会活動にすら一気に展開することができることを国文祭情報レポーターのケースが実証しています。

人の理解や記憶を支援するものです。それによって主体的に自己開発をすることができます。e ポートフォリオ学習は、個々人の望ましい特質をその人自身が引き出すことのできる人類の夢の情報メディアの実現です。

【 4 】協働学習で地域活動 / 裏方のサーバ運用

(1) 地域で学び合い教え合う

協働学習のワークショップを開くことは、eコミュニティづくりの種まきになります。受講生はeポートフォリオを自力で作ることができます。普通の学習グループとは一線を画した能力者集団となります。

協働学習を持続性のあるものにしていくには、しっかりと協働学習を企画できるリーダーがその地域に欲しいところです。生涯学習センターや公民館などの生涯学習施設では、企画立案の担当者に協働学習の機会提供、eコミュニティ形成支援の計画をしっかりと立てていただくのがよいでしょう。リーダーないしは生涯学習企画担当者がコーディネートしたり、企画を実行していくことで協働学習の輪が広がっていきます。成果も出しやすくなります。普及啓発という点では、皆が参画しやすい企画を立てていただくことがポイントになるでしょう。

(2) 裏方のサーバ運用

サーバは皆で情報を蓄積したりネットに情報を公開していく上で不可欠なものです。自宅からでもどこからでもインターネットにつながっていれば、誰でもサーバを共同利用することができます。自分たちでサーバを構築したり運用できると、サーバの自由度がぐんと高まります。サーバを構築するのは、かなり技術に詳しい人でないといけないものと思われてきましたが、やまがたネットでは、サーバ構築ワークショップを開き、皆で教え合いながらサーバ構築も協働学習できることがわかりました。

(3) 生涯学習政策に届けたい声

地域でIT活用型の生涯学習を指導・先導する方々に話を聞きました。高齢者にホームページを作りたいニーズがあること、学習グループの活動を記録しネットに公開することが活動の潤滑油になること、施設の生涯学習事業担当者などが自ら情報発信の面白さを工夫することが求められることなどの声がありました。

(4) 県の生涯学習企画担当は語る

市町村の指導的役割を持つ県生涯学習センター（茨城県、山形県）の企画担当者にお話を聞きました。県の生涯学習政策には、主体的な学習、学習者どうしによる学び合い（協働学習）の支援が掲げられているものの、それを支援する具体的なツールがないことが現実的に踏み出せない壁になっていることも見えてきました。今後は、市町村などで生涯学習企画担当者も含め、地域の人々が地域の情報を楽しみながら発信できる活動を自ら行ったり、支援していくことが望まれます。

(5) 留意すべきいくつかの点

情報をインターネットに公開する上で、著作権、肖像権などの扱いについては特に留意がいります。協働学習の実施に当たっては、他者の権利を侵害することのないよう学習者や仲間に対ししっかりと伝えて下さい。

「eコミュニティ」は学習の協働的な面白さを育むものである一方、社会に参加し社会貢献するものであるから、自分たちが責任を持って運営に当たることも求められます。

「生涯学習」という堅い表現よりも「生き甲斐づくり」と呼んではどうかとの意見もありました。協働学習は21世紀の生涯学習にふさわしい、市民主体のIT活用型の協働的な「生き甲斐づくり」です。より望ましい生涯学習社会（学習の面白さが誘発されていく社会的機能）の実現に向けて、行政・市民などの立場を問わず、まずは「協働学習」の企画から始めてみてはいかがでしょうか。

